

8310 空から見ると、ドイツは森の海であって、・・・

空から見ると、ドイツは森の海であって、その海の中に点在する島々が都市であり、町であり、村である。その深い森の中から『白雪姫』(*The Snow White*)が生まれ、『ヘンデルとグレーテル』(*Hendel and Gretel*)が生まれた。森はドイツの人々のイメージを羽ばたかせる。ドイツ人に色濃く根ざす‘ロマンチック’な性情も、ドイツの深い森の所産なのだろうか。

雑誌「リー」ドイツとの対話

[許容訳例]

Seen from the air, Germany is a sea of forest. The islands lying scattered in the sea are cities, towns, and villages. Out of this deep forest, *The Snow White* and *Hendel and Gretel* came into being. The forest stirs the imagination of the Germans. May not the romantic streak so deep-rooted in the German also be a product of the nation's deep forests?

[翻訳例]

Seen from the air, Germany is a sea of forest in which the islands dotted here and there are cities, towns, and villages. It was this deep forest that gave birth to *The Snow White*, and to *Hendel and Gretel*. The forest is a stimulus to the German imagination. The romanticism so deeply footed in the German character is itself, one suspects, a product of the nation's dense forests.

■空から見ると、ドイツは森の海であって、その海の中に点在する島々が都市であり、町であり、村である。(8310)

★「空から見ると」は、「ドイツは・・・」と続くので、「ドイツ」が主語ですから、beingを省略した受動態で seen from the air[sky]です。なお、こういう場合よく the air(e.g. high up in the air)を使います。なお、「いつでも(・・・の状態)見える」のですから seeを使います。looked at from the air[sky]は「空からちょっと見ると・一見すると」の感じで、ここでは使えないでしょう。

★「ドイツは森の海である」は Germany is a sea of forest.でしょう。なお、woodsでも間違いではありませんが、ちょっとスケールが小さく、身近・手近の感じになりますから、ここはやはり forestの方が「森の海」という広大な感じが出ると思います。

★「その海の中に」は in the sea でもいいですが、すでに a sea of...と言っているのですから here and there でもいいと思います。

★「(物が)(～に)点在する」は be dotted[scattered] in ~です。beを lie に代えることも出来ます。

★「島々」は定冠詞を付けて the islands でしょう。

★「都市であり、町であり、村である」は are cities, towns, and villages でいいでしょう。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」（その海の中に点在する島々）

「その海の中に点在する島々」は「連体修飾節（その海の中に点在する）＋不定代名詞的体言（島々）」ですから、英語では「名詞(the islands)＋関係詞節(which are dotted / lie scattered in the sea of forest)」ですが、後に are を使うので、which are dotted→being dotted→dotted とし、which lie scattered は lying scattered とします。「いつものこと」を表す現在時制の関係詞節は現在分詞にして関係詞を省くことが出来ます。たとえば、This hill looking out on the sea is the place where my older brother would often come to paint.（この丘は海が見晴らせるので、ここへ兄はよく来て絵を描きました。）

●「同時」の〔と〕と、「同時状態」の〔て〕

◆in which と where の感覚

日本文は「空から見る〔と〕、ドイツは森の海であっ〔て〕、その海の中に点在する島々が都市であり、町であり、村である.」と、〔と〕（同時）と〔て〕（同時状態）という二つの「修辭的工夫」で一文になっていますから、英語でも一文にする方がいいと思います。はじめの「空から見る〔と〕、ドイツは・・・」は「空から見るドイツは・・・」と同じで、「連体修飾節＋特定体言」ですから、「特定名詞(Germany)＋コンマ関係詞節」か「分詞構文＋特定名詞(Germany)」で対応します。ここは日本語の情報順に「分詞構文(Seen from the air,)＋特定名詞(Germany)」とするといいでしょう。次の〔て〕は「同時状態」なので and でもつながることが出来ますが、「ドイツは森の海であっ〔て〕、その海の中に島々が・・・」と「海」(sea)を二つ重ねて続けてので、関係詞節にする典型的な事例です。a sea of forest in which the islands…とすると、日本文と同様にコンパクトに一文にすることが出来ます。なお、in which の代わりに where も使えないことはありませんが、どちらかと言うと in which の方が具体的でいいでしょう。where はちょっと範囲が広がって、この場合全体として引き締まらないような気がします。

■その深い森の中から『白雪姫』(*The Snow White*)が生まれ、『ヘンデルとグレーテル』(*Hendel and Gretel*)が生まれた。(8310)

★「その深い森」ですが、飛行機で上から見ると、ドイツは本当にここで述べているように「(針葉樹の) 森の海」です。スペインは上空から見ると、茶色の土地に道筋が伸びていて、道が別の道と交わるところに家々が重なっています。イギリスは石積みで囲まれた牧草地に沿った道が交わって、そこに街があります。どこの地方でも街は道の交点に出来ます、まず鍛冶屋ができ、次に待っている間に酒を飲む酒場が出来、酔っ払って泊まらざるを得なくなった人のために旅籠が出来、次に、飲んで泊まってすってんてんになった人のために両替屋ができ、反省するための教会が出来て、だんだん街になります。言葉は風土とも関係していて、ここは「(海のように) 深い森」のイメージでしょう。ですから a deep sea of forest なら可能なのですが deep forest でいいか気になります。実際の記事から用例を集めた『英和活用辞典』で forest を見ると deep forest（深い森）がありますが、deep forest という言い方はあまりしないのです。つまり、forest そのものが deep という言い方は本当は英語には

ないのではないかと思います。そこで何を使ったらいいか考えてみたのですが、ぴったり相当する言葉はありません。日本語の「その深い森の中から」とは *deep in the forest* (森の奥深くに) に相当するのではないかとも思えます。他に *dense* という言葉もありますが、これは厳密に言うと「木が密生していてちょっと通りにくい」という感じで使います。多少違和感がありますが、ここでは *deep forest* とし、後半にもう一度出てくる「深い森」には *dense forest* を当てることになります。

★「(この深い森) の中から」は、*from this deep forest* でもいいですが、「～から生まれた」と続くので、その感じをもう少しよく出すためには *from* より *out of* を使った方がいいです。

★「～が生まれた」は *The Snow White* や *Hendel and Gretel* を主語にするなら *came into being* でもいいですが、*this deep forest* を主語にすると *give birth to* (生み出す) というイディオムを使うことができます。

●文体の問題

「その深い森の中から『白雪姫』(*The Snow White*)が生まれ、『ヘンデルとグレーテル』(*Hendel and Gretel*)が生まれた。」は、要するに「その深い森の中から『白雪姫』(*The Snow White*)や『ヘンデルとグレーテル』(*Hendel and Gretel*)が生まれた。」ということなので、*Out of this deep forest, The Snow White and Hendel and Gretel came into being.* とすれば、日本文に相当する情報順になります。これでもいいのですが、日本文の「A が生まれ、B が生まれた」という表現は一種の強調のように感じられます。したがって、その感じを英文にも加えんとするなら、*Out of this deep forest, The Snow White came into being and Hendel and Gretel.* となります。ただし、この英文は日本語に引きずられて、やはり何となく英語らしくないような気がします。つまり、いきなり *Out of...* で文章を始めるのではなく、この日本語の強調感を出すには、英語ではどうしても *It was...* という強調形にしたくなるのです。*It was this deep forest that gave birth to the Snow White, and to Hendel and Gretel.* とするのが一番日本語に近い英語表現となると思います。昔、随想集を英語の訳付きで出版したことがあります。翻訳者を選定する際に、幾人かの英米人にテスト翻訳を提出してもらいました。日本語の文章が書けるくらい日本語の出来る人の翻訳は、日本語に引きずられてぼつぼつした英文になっていました。日本語はわかるけれども自分では書けない人の翻訳はいい英語でした。一箇所訳し落としがあったので、*rest in peace* と加えなければならなくなったとき、彼は、それを加えてからパラグラフ全体を読み直し、訂正箇所からいくらか離れた文章に手を入れました。それからもう一度、鉛筆をタクトのように振りながら読んでから渡してくれました。翻訳とは、母語を壊さず異言語の情報を写し取るものなんだと思ったのを覚えています。50年ほど前のことです。

■森はドイツの人々のイメージを羽ばたかせる。(8310)

◆定冠詞の *forest* と無冠詞の *forest*

★「森は・・・」の「森」ですが、ここで無冠詞で用いると、たとえば、*Ninety percent of*

the country is covered with forest./ This floor is covered with carpet./ The wall is covered with paper.のように、forest を物質として見る感じになります。ところが、ここはそうではなく、自然現象として昔から人々の生活の一部となっているものとして forest をとらえている感じなので the forest です。これは the station とか the post office の場合と同じです。普通、こういう使い方はしないという意味で完全な英語とは言えないのですが、たとえば、無冠詞で Forest has disappeared completely from this country.と言うと「森というものはもうこの国にはない」ということですが、The forest has disappeared…とすると「昔からあった（人々の日常生活の一部となっていた）森はもう無くなってしまった」となります。ですから、定冠詞を付けて the forest とします。

★「ドイツの人々のイメージ」は the imagination of the Germans でもいいし、the German imagination でも、どちらでもいいと思います。なお、ここはイメージそのものではなく、次から次へとイメージを連想させることです。image は使えません。英語で image というのは imagination から出てきた一つ一つのもの、ということになります。たとえば、What image do you have of Japan?と言えば「日本という名前を聞いたらどんなものを想像しますか [思い浮かべますか]」ということです。

★「羽ばたかせる」は stir の他に stimulate とか be a stimulus to も使えます。

■ドイツ人に色濃く根ざす‘ロマンチック’な性情も、ドイツの深い森の所産なのだろうか。(8310)

★「ドイツ人に」は in the German とか in the German character でしょう。

★「色濃く根ざす」は be deep-rooted とか be deeply footed です。

★「‘ロマンチック’な性情」は the ‘romantic’ character ではなく the ‘romantic’ streak がいいでしょう。厳密に言うとは character とか disposition という言葉は、人 [国民] の性格全体を含めて言う場合に使います。したがって、the romantic character は何に根ざしているか考えると、結局 character に根ざしているということになるので、「性情」に character は使えないのです。romantic streak (ロマンチックな傾向) とか、あるいは「ロマンチックな性情」を一語で表す romanticism を使うことになります。

●「連体修飾節＋不定代名詞的体言」(ドイツ人に色濃く根ざす‘ロマンチック’な性情)

「ドイツ人に色濃く根ざす‘ロマンチック’な性情」は「連体修飾節 (ドイツ人に色濃く根ざす) ＋不定代名詞的体言 (‘ロマンチック’な性情)」ですから、「名詞(the ‘romantic’ streak [romanticism]) ＋関係詞節(which is deep-rooted [deeply footed] in the German [the German character])」ですが、which is は省くことが出来ます。

★「(・・・な性情) も」ですが、also の他に、itself でも表すことができます。

★「ドイツの深い森の所産」は a product of the nation’s deep[dense] forests とします。a product of the deep[dense] forest in Germany でもいいのですが、forests と複数にして、いろいろの森を含めた方が具体的になります。それから、最初のところで Germany を使っているのに、英語では同じ言葉を繰り返すとどうしても弱い感じになります。なお、「所産」

のところは was born も使えます。

★「・・・のだろうか」にはいろいろな言い方があります。英語では地の文に直接話法の文を混ぜるのを嫌いますので、普通の疑問文にするのではなく、Is it not possible that…?とか It is possible that…とか、あるいはただ単に perhaps とか possibly を適当に入れたり、one suspects を挿入することで表します。特に、この one suspects を挿入すれば「・・・だろうか [・・・かもしれない]」に対応する表現になります。

●文技巧 (so の感覚)

「ドイツ人に色濃く根ざす‘ロマンチック’な性情も、ドイツの深い森の所産なのだろうか。」は「・・・だろうか」とは言いながら、「(みなさんご存じの) ロマンティックな性情はドイツ人に色濃く根ざしていて、これもドイツの深い森の所産なんですよ」(The romanticism that everybody knows is deeply footed in the German character and that character is itself a product of the nation's dense forests.)と鼻をうごめかしているニュアンスが感じられます。これはちょっと難しいのですが、読者の注意を引き、かつ、deeply footed in the German character と a product of the nation's dense forests という二つの情報を新しい事実・情報として提供しているのだと読者に知らせようとしていることを示すには、どうしても deeply の前に so (話者の主観的強調 e.g. I so wanted to see the Alps.)を加えたいくなります。したがって、The romanticism so deeply footed in the German character [The romantic streak so deep-rooted in the German] is itself[also], one suspects, a product of the nation's dense forests. としたいのです。